

<オリエンテーション>**A. テーマ**

「キリスト教思想における自然の諸問題」(5年程度?、連続する予定)

B. 何が問題か(導入)

- ・文化から自然へ(言語の問題)、自然神学(キリスト教の合理性)、エコロジー(生命)、近代科学とキリスト教(思想史的問題)
- ・「宗教と科学という問題・問題群」の意義
実践的意義、そしてキリスト教自体からの必然性
- ・問題の困難さ 宗教と科学との相互理解の場は再構築可能か?
- ・「自然の宗教哲学」をめざして
今年度から、再度取り組みを再開する

C. これまでの経過(HPの掲載)

- ・2000, 2001年度は、本格的な研究のための予備的考察を行った。
- ・「キリスト教思想における「自然」をめぐるの諸問題」

<2000年度>

講義への導入(4/17)

第一章:文化から自然へ

- 自然はいかなる仕方でキリスト教思想の問いとなるか -

1. マクフェーグの隠喩神学と自然の問い(5/8,15,22,29)
2. ティリッヒの文化の神学と自然の問い(6/5,26)
 - 2 - 1:なぜ文化の神学か、自然はいかに問われるのか
 - 2 - 2:ティリッヒと自然の問い

Exkurs:南アジアのキリスト教 - インドを中心に - (9/25)

第二章:自然神学の諸問題

1. 自然神学は過去の遺物か?(10/2)
2. 自然神学とは何か - 歴史的起源 - (10/16)
3. 自然神学をめぐる諸立場
 - 3 - 1:自然神学批判(哲学的な)(10/23)
 - (1)アンセルムスの論証
 - (2)ヒュームの自然神学批判
 - (3)ヒュームにおける自然神学批判のまとめ
 - (4)カントの自然神学批判

- 3 - 2 : 自然神学批判(神学的な) (10/30)
 - (1)バルト神学と自然神学
 - (2)バルトによるアンセルムス解釈
 - (3)バルト神学の学的性格
- 3 - 3 : 自然神学の再建に向けて(11/6)
- まとめと展望(11/20)

< 2001年度 >

- オリエンテーション(4/16)
- 序:キリスト教思想と自然の問い
 - アインシュタインの宗教論を手がかりに - (5/7)

第三章:キリスト教思想と環境倫理

- 1:問題状況 - 環境破壊とキリスト教の責任 - (5/14)
- 2:創造物語における「自然」の支配(5/21)or(5/28)
- 3:キリスト教的創造論の展開と自然理解 (6/4)
- 4:新しいキリスト教倫理と神秘主義
 - 4 - 1:ノーリジのジュリアン (6/25)
 - 4 - 2:シュヴァイツァーの「生命への畏敬」(6/25,7/2)
 - 4 - 3:キリスト教倫理における責任論 (7/2)

第四章:近代科学とキリスト教

- 1:近代キリスト教の歴史的状況 (10/15)
- 2:神学者ニュートンと自然神学(10/22)
- 3:ニュートン主義と理神論 (11/19)
- 4:キリスト教の合理性をめぐって(11/19)

EXKURS

- 1:ティリッヒとエコロジーの問題 (10/1)
- 2:P・ティリッヒの科学論とその現代的意義 (10/29,11/5)

D.2002年度・特殊講義予定

<オリエンテーション> (導入)

宗教と科学という問題・問題群

4/16

第一部:自然の宗教哲学の構築を目指して

第一章:自然の宗教哲学の構想とティリッヒの次元論

4/23,5/7,14,21,28

生の多次的統一性 / 健康・病と治療の問題

<u>第二章:宗教言語と科学言語</u>	6/4,11,25,7/2
EXKURS:アジアの宗教的多元性とキリスト教思想の再構築	10/1
<u>第三章:形而上学再考</u>	10/8,15,22,29
現代のキリスト教思想の視点から ギルキー / ホワイトヘッド / パネンベルク	
<u>第四章:精神と宗教</u>	11/5,12,19,26,12/3
精神とは / 社会システム論とパラドックス(ルーマン) / 新しい次元の創発性の理論化に向けて	

E.受講の注意

- ・配布プリント
- ・講義内容の質問について
- ・単位は、年度末のレポートによる。提出は、1月上旬。